

小松市未来型図書館等複合施設基本計画 概要版

基本計画本編は
こちらから➡



基本計画策定の目的及び基本方針

未来型図書館づくりは、「**市民と共に進める、次世代都市**」づくりを体現するモデルとして位置付け、令和3年度より市民との対話による共創のプロセスを重視しながらプロジェクトを推進しています。

【令和3年度】調査・研究

- ・各種市民団体との意見交換会
- ・専門家による講演会
- ・子どもたちからの絵画募集 など

【令和4年度】基本構想

- ・基本構想策定委員会
- ・市民ワークショップ
- ・人材育成講座開始(子ども司書等) など

【令和5年度】事業方針

- ・複合機能の検討・立場所選定
- ・官民連携手法等の調査・検討
- ・「こまつリビングラボ」開始 など

令和6年度は、これらを踏まえ、複合施設における機能・規模の具体化や周辺施設を含めた施設整備計画、管理運営計画などを盛り込んだ「小松市未来型図書館等複合施設基本計画(以下「基本計画」)」を策定しました。今後の設計や施設整備に向けた重要な方針となる基本計画のもと、**市制90周年の節目となる2030年の開館を目指しプロジェクトを推進**していきます。

未来型図書館における「未来」の定義

小松市の「未来」を共に創る(「未来」に触れる)

まちを創る

未来型図書館は、施設の整備や運営にとどまらず、「小松市の未来」を創る、まちづくりのプロジェクト。まちじゅうに、さまざまな架け橋を渡し続ける

こと・ときを創る

未来型図書館は、未来に起こる変化の中で、暮らしや施設を通して起こる体験(こと・とき)をつくり続けていく

ひとを創る

子どもは地域の未来。未来型図書館は、子どもたちの未来を想像するための環境を提供し続けていく

- ビジョン・コンセプトを踏まえ、未来型図書館の「未来を共に創る」というテーマのもと、3つの小松の「未来」を創る。
- また、次世代の可能性を共に探求しながら、常に先端に行く「未来に触れる」という意味も含まれる。
- これらは、未来型図書館における「未来型」を表すものとして位置付ける。

未来型図書館の基本方針

機能の融合による新たな価値創造

図書館や博物館など多面的機能の融合により、多様な世代や市民ニーズに対応した知と文化の拠点、新たな価値の創造拠点を目指す

デジタル化と情報発信の強化

多様な交流、コミュニケーションが可能な情報環境を整備し、誰もが情報を活用できる環境を実現する

多様なニーズに対応した空間とサービスの提供

多様な活動や交流に活用可能な空間を整備し、アクセシブルな書籍の導入など、誰もが利用しやすい環境を実現する

市民協働と官民連携による共創型運営の実現

市民参加型の運営ネットワークを構築し、官民それぞれのノウハウを活かした、持続可能な施設運営を目指す

施設連携と地域全体での文化発信

南部図書館や市内文化施設との連携を強化し、地域全体で資料を共有・保存し、文化を発信・学習する仕組みを構築する

まちづくりとしての未来型図書館づくり

「小松市2040年ビジョン」の実現を目指し、新時代の象徴となる未来型図書館をまちづくりのキーステーションとして位置付ける

複合施設の機能の概要

施設規模は、約9,000㎡を想定しており、**図書館や博物館、交流・活動を支える機能など多面的な機能をもった融合型の施設**を目指します。(「融合」により、各機能が連携・協働し新たな価値を生み出すことが期待されます)

図書館機能の主なポイント(知の集積)

- ・蔵書数は約35万冊を想定
- ・想像力を沸き立たせる**テーマ配架**を導入
- ・公開書庫の導入



©石川県立図書館

博物館機能の主なポイント(地域の歴史文化の集積・編集)

- ・変化のある体験型企画展示
- ・文化活動を支える市民ギャラリー
- ・「魅せる収蔵庫」の導入



©一支部博物館

市民交流・活動機能などの主なポイント

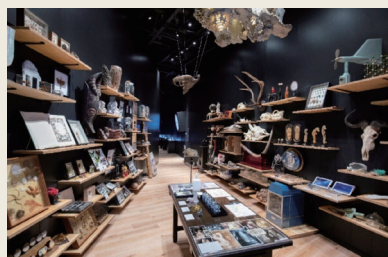
- ・カフェなど一人でも複数人でも気軽に集い、くつろげる**多様な環境を提供**
- ・ティーンズ世代が楽しく集える「ティーンズスタジオ」の導入
- ・対話と様々なプロジェクトが生まれる「リビングラボ」など

導入機能リスト

コンセプト 13の機能		室 名	面積 (㎡)
こまつ ベース	情報と活動の融合	コレクションハブ	約500
	知の集積	開架書架	約4,200
		閲覧スペース	
		その他コーナー、閉架書架	
	「個」の活動	個人スペース	共用部と一体
	くつろぎ・居場所	広場・フリースペース	約100
こまつ commons	知・文化の共有	市民交流×ミーティングスペース	約350
	地域の歴史文化の 集積・編集	展示室、収蔵庫、 バックヤード	約900
		体験の共有・交流	多目的スペース
	飲食スペース・カフェ		約100
	物販スペース		約40
	施設・地域連携	学校連携支援	約30
こまつ キャンパス	発信・表現	市民ギャラリー	約300
	創造	クリエイティブスタジオ	約100
		パフォーマンススタジオ(音楽・ダンス)	約100
		ティーンズスタジオ	約100
	子育て支援	キッズルーム	約150
	活動支援	ビジネス支援スペース	約50
コンセプト横断	共創	リビングラボ	約180
共用部分		エントランス、トイレ、授乳室、管理人室、 倉庫等、階段・廊下・EV	約1,600
延床面積			約9,000

融合の象徴となる「コレクションハブ」

- ・図書館の「テーマ配架」と博物館の「テーマ展示」を中心とした一体的な空間「コレクションハブ」を配置(施設内に分散配置)
- ・「テーマ配架×テーマ展示」は、市民との協働によって定期的に更新されみんなでアイデアや地域の情報を持ち寄り、展示内容を共に創り上げていくことを想定しています。



※参考イメージ

©角川武蔵野ミュージアム



コレクションハブのイメージ図

複合施設の建築計画

まちなみや芦城公園の風景との連続性、周辺施設との調和を図り、新たな「キーステーション」として誰もが気軽に利用でき、多くの市民に親しまれる施設を目指します。

また、多面的機能が実空間、情報空間の双方で機能融合し、オープンで賑わいのある空間デザインとし、リビングラボでの意見をもとに以下の3つのコンセプトを定めました。

【3つの建築空間コンセプト】

- ① まちからアクセスしやすく芦城公園の豊かな自然環境とつながる開放的な空間
- ② 複合機能が融合し立体的に回遊しながら多様な活動や情報と出会うことのできる空間
- ③ 誰もが思い思いに自分の居場所を見つけることのできる多様性に富んだ空間



※イラストは各機能の空間イメージ図です

管理運営計画の検討

- ・組織体制については、民間事業者のノウハウや主体性を活かした運営を基本に、**官民連携による新たな価値を創出する協働体制を構築**します(下図参照)。
- ・市では、市民共創による持続的な企画・運営の一環として、令和4年度より子ども司書などの人材育成に取り組んでいます。人材育成やリビングラボなどの活動を通じて、**利用者自身が未来型図書館の整備や運営に参加する「利用者協働」の視点を重視**します。
- ・目標来館者数については統計的指標等を参考に来館者数を推計し**年間40万人と設定**しています。



統括責任者		
総務	広報デザイン	DX推進
- 施設の運営管理を統括し、日常業務を円滑に進める。 - 契約管理や予算執行、スタッフのシフト調整を行い、持続可能な運営を確保する。 【共創】リビングラボ実施の際の予算管理や安全管理などを行う。	- 未来型図書館の魅力を広く発信し、来館者の増加や市民の関心を高める。 - 情報発信媒体(SNS、広報誌、マスメディア等)を一元的に管理し、イベントやサービス内容の周知を行う。 【共創】市民との協働により、リビングラボの活動内容や成果を発信。開かれたリビングラボの実践に貢献する。	- システムやオンライン展示などのデジタル環境を企画・運用する。 - デジタルサービスを管理し、業務効率や利用者の利便性の向上を推進する。 【共創】リビングラボ実施に必要なデータベースやデジタルツールを提供する。
市民交流・活動機能	図書館・博物館機能	民間機能
- 日常的な受付・案内役を担う。 - 市民交流や活動を促進するスペース・プログラムを運営し、ワークショップ・講座・イベントなどを企画する。 【共創】「共創」の場を支えるコーディネーターとして機能する。	- 図書館司書と博物館学芸員の高い専門性の連携によりキュレーション(※)業務を担う。 - 図書館の選書・管理、博物館の収集・整理・展示企画、横断的なレファレンス・レフェラルサービスを行い、学びと文化を融合させたプログラムを提供する。 【共創】リビングラボの課題に対し、図書館・博物館の情報を活かしてレファレンス・レフェラルサービスを行う。	- カフェやショップなどの民間機能を運営し、来館者にとって居心地の良い空間や飲食サービスを提供する。 - 図書館・博物館の企画やイベントと連携し、施設全体の魅力を高める。 【共創】リビングラボで生まれたアイデアを試作・試行へとつなげる場を提供する。

※情報や資料を選び、整理しながらテーマに沿った価値を生み出すこと。

未来型図書館の組織体制

関連計画

- ・芦城公園にある既存施設については、集約・再編・移転等ののち解体しますが、地震による影響を受けた公会堂、博物館等は令和7年度に先行解体します。図書館は、未来型図書館の供用開始後に解体する予定です。
- ・2040年ビジョンのもと、未来型図書館と芦城公園が一体的に機能し、**新たな賑わいの創出を図るため令和7年度に公園基本計画を策定**します。
- ・引き続き、必要駐車台数の調査を進め、平面駐車場や周辺状況も踏まえ駐車場計画の検討を進めます。



小松市2040年ビジョンと公園整備

事業計画

事業手法等については、民間事業者の皆様とのサウンディング調査や定性・定量評価などに基づき、総合評価を行い、**PFI方式(設計・建設・管理運営の事業全体を一括して性能発注)が最も有力**であると評価しました。

【概算事業費】

- ・整備費の費用は約86億円、
- 管理運営費は約4.3億円/年と想定しています。

整備費		(税込)(単位:千円)
項目	金額	
整備費	設計・監理費	638,000
	建設費	7,437,000
	ZEB Ready費用	555,000
合計		8,630,000

※今後も物価高騰が予想されることから、引き続き市場の動向を注視し、事業者選定手続きにおいても検討

【事業スケジュール】

令和7年度から令和8年度にかけて、**未来型図書館の整備及び管理運営を行う事業者選定**を行い、市制90周年にあたる**令和12年度の供用開始(開館)**を予定しています。

共創の実践

リビングラボは、未来型図書館で起こる活動・体験を共に創る「共創のネットワーク」であるとともに、未来型図書館を拠点として、**まち・地域を共に創る「共創のプラットフォーム」として発展し、まちや暮らしを豊かにする原動力**となっています。

今後は未来型図書館づくりにとどまらず、「**地域課題の解決や新たな価値創出**」などのテーマにも挑戦し、**新たな共創のステージへのステップアップ**を目指していきます。



令和6年度第5回リビングラボにて「未来型図書館を共に創る!こまつリビングラボ」の掛け声にあわせて撮影

